

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 くさぶえ )

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井公徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	平成 24年 9月 13 日	開設年月日	平成15 年 10 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 11月 16日	評価結果決定日	平成 24年 12月 10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく生活を送られるよう、職員の思いや考えをまとめた理念を事業所内に掲示するとともに、ネームプレートにもいれ理念を意識した支援に取り組んでいる。また、スタッフ会議でもケース検討を行い理念に照らしたケアができているか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の伝統行事に出かけたり、地区文化祭への作品の出品、事業所の行事へ参加頂いたり積極的に交流を図っている。また、地域の方より野菜を頂いたもので調理や漬物を作りそれを行事で振舞ったり、地元婦人会・企業などのボランティアの受け入れも行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH運営推進会議で地域の委員の方に、GHでの様子や入居者のみなさんより学んだことを伝え、認知症の理解や支援のあり方を広めて頂くように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は市職員・地域代表・家族代表が委員となり、2ヶ月に1度開催している。事業所からの報告とともに委員の方からは運営に関する意見や質問、地域行事などの情報やアドバイスをいただくなど双方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ出向している職員を介して、また、運営推進会議で市職員より、介護保険の動向や市・他事業所の情報など教えて頂き交流を図っている。また、管理者が市の「地域ケア包括会議」のメンバーとなっている事で、保険者や地域の代表者との情報交換が図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人職員を対象とした身体拘束排除にむけての研修会や山形県社会福祉協議会主催の研修会に参加し理解を深めている。利用者一人ひとりの思いや行動傾向の把握に努め外出を予測するとともに事前声掛けや見守り、付き添いなど支援を行い安全に過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人職員を対象とした権利擁護や高齢者虐待についての研修を実施しスタッフ会議で伝達講習を行った。職員間の情報共有に努め適切なケアが行われるよう取り組んでいる。また、所属長が職員個々に面接をする機会を持ち状況把握に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人職員を対象に権利擁護や高齢者虐待防止、成年後見制度について研修会を通して理解した。また、推進会議でも研修会を行い、地域の皆さんへの啓発にも務めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族がよく理解し、納得していただけるよう十分な説明を行うとともに、不安や疑問点など入居者や家族の意向も聞かせて頂くよう配慮している。また、契約時にはなくても、後日疑問点などあった場合には柔軟に対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2年に1回にアンケート調査を実施している。ホーム玄関にご意見箱を準備し、頂いたご意見に関しては全職員で分析・検討・対応をし、今後活かしていくよう努めている。また、運営推進会議や家族へも報告を行なっている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議へ出席し、事業所の決定事項について管理者へ伝達を行い、必要時には管理運営会議に反映するようにしている。常時要望を聞く姿勢でおり定期的な面談を行い、職員と話やすい環境や関係を築くよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より管理者や所属長とコミュニケーションを図り必要に応じて個人面談の機会を設けている。月1回はホームにて一緒に食事を取りながら実態把握に努めている。就業規則や給与水準の変更時には職員会議で説明し全職員へ理解と同意を得ている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協議会の交換実習へ参加している。また、法人教育委員会主催の研修・山形県社会福祉協議会主催の研修への参加や、GH独自でも学習会を開催し事例検討を行うなど、職場においては常に学びの場としている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	置賜GH協に加入し他事業者との交換実習や研修会を行なっている。また、母体介護課で実習を行うなど、視野を広げるための取り組みも行なっている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望を受けた段階でご自宅や入所施設へ訪問し、本人と直接話しをすることで心身の状態や本人の思いを受けとめるように努めている。また、ホームへの見学をして頂き、不安を少しでも取り除けるよう配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けるときは家族が自由に話ができるように配慮している。家族の思いを受け止め今後の方向性についても一緒に考えていくようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとって最もよい支援は何かを見極め母体の総合相談センターとも連携をとりながら必要なサービスの提供に心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理や掃除などの作業を行い得意分野で力を発揮していただいている。喜怒哀楽を共有し、生活を共にする中で入居者の方の言葉や笑顔、行動から職員が感動したり学ばせて頂くことが多い。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問や電話などで本人の状況を伝えている。家族が訪問した際は居室だけでなくフロアで一緒に過ごしたり、職員とその時々の情報交換を行い、本人の立場になり家族と一緒に考えながらお互いの理解に努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近隣の方の訪問があったり、昔なじみの神社でのお祭りへ参加し、しばらくお会いしていない親族の方とも楽しい時間を過ごすことができた。気のあう方同士で話せる雰囲気作りを心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごしたり気の合う人同士で過ごせるような環境設定や利用者同士の関係が円滑になるよう配慮している。時にはトラブルになることもあるが、入居者同士で解決できる場面もあるため、職員は場面に応じ見守りや介入を行なっている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院なった方へお見舞いや面会に行ったり、ご本人の状態やご家族のお気持ちに沿った支援を行なっている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、また、日々の表情や言動、習慣から利用者の希望や要望を把握するように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅を訪問し、本人・家族より聞き取りを行なっている。入居時点でセンター方式(B-3・C-1-2・D-1シート)に記入もしていただいている。その上で、生活歴や馴染みの暮らしを職員全員で確認し情報共有に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを重視し尊重するようにしている。また、その時の利用者の心身状態に合わせ、準備や関わりを工夫しながらできる能力の発揮に務めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族の思いを十分に把握し、センター方式を活用しながらプランを立案している。また、家族の方にもカンファレンスに参加して頂き情報共有に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況や本人の言動、行動、体調変化など毎日記録に残し情報を共有している。3ヶ月に1度は介護計画の評価を行い、また実施期間中であっても体調の変化が見られた場合は検討・見直しを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	企業ボランティアの協力により、事業所内外の環境整備を行って頂いた。また、芋煮会やもちつき、クリスマス会等の行事に地域の方々やボランティアの方に参加いただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は、日頃の状況を記入した連絡表を活用し、受診結果や指示等を記入していただいている。家族同行受診が不可能な時や、状況に変化がある場合は職員が付き添っている。受診が困難な利用者については往診をいただいている。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で医療連携体制をとっており、情報共有、情報交換をしながら支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関に提供している。入院中の本人の状態や治療の様子等を家族に聞いたり、職員が病室に伺い情報を得ている。医療関係者とは必要時、家族と共に面談させていただいている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応にかかる指針」について家族に説明し、確認書をいただいている。入居者の段階に応じた話し合いを繰り返し行いながら家族と共有し、支援をしている。話し合った内容は、記録に残し職員全体で共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内職員と共に消防署に出向き、事故発生や救急時の対応について訓練を実施している。また、新入職員には、法人内の救急救命士による学習会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。消防署の指導で年2回訓練を実施しており、事業所独自でも1~2ヶ月ごとに実施している。平成21年6月に2地区と災害時相互協力協定を結び、協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の尊厳や誇りを傷つけないように、常に利用者の立場に立って声がけや対応を行っている。プライバシー保護に関しては法人内研修や、スタッフ会議で確認しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者主体の生活で、本人の思いや願いを表現できるよう傾聴し、利用者が自分で決める場面を作り、自己決定を尊重した関わりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、時間を区切らず、利用者の思いやその日の過ごし方の希望、生活リズム、体調に配慮しながら、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着用する衣類は、利用者本人が選べるよう支援している。選べない方については、本人の好みに添って職員が選んでいる。洗面所に個々の棚があり、身だしなみが整えられるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や好みに添って献立を変更したり、畑で収穫した野菜や地域の方からの差し入れ等を用いて調理している。食事の準備などは、入居者の方に教わりながら一緒に行ない、同じテーブルで食事をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士に事前の献立や変更の実績についての確認と、指導・助言を受けている。栄養摂取、水分確保が必要と判断された入居者に関しては、チェック表を用い、記録を行ない、状態を把握している。食器なども状態に合わせたものを使用している。また、事業所独自に法人管理栄養士による学習会を実施した。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて歯磨きの声かけや確認、介助を行っている。義歯洗浄に関しては洗浄剤を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。口腔内や義歯に違和感が見られた際は法人の歯科衛生士に相談し、状況によっては歯科受診をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを使用しながら排泄パターンの把握をし、職員間の連携を図りながら、時間を見て誘導を行ったり、利用者の排泄サインを汲み取るなど、個々に合った対応をしている。排泄の自立に向けたリハビリ体操を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療連携看護師と連携を取りながら、繊維の多い食材や乳製品の提供、ラジオ体操や散歩など日中の活動を通してできるだけ自然排便となるよう取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を聞いたり、タイミングに合わせて入浴の支援をしている。入浴を拒む場合は声かけを工夫するなど、抵抗感を取り除くようにしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムで休息や就寝ができるように支援している。夜間眠れない方には、一緒に会話をしたり、暖かい飲み物を提供したり、フロアのソファークラフトで休んでいただいたり安心してできるよう対応を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された「お薬の説明書」を確認することで理解している。服薬時は名前を声に出し間違いのないようにしている。処方内容の変更、本人の状態に変化が見られた場合は、記録・伝達し職員への周知を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族よりその人の生活歴を伺い、経験や得意分野を活かせる場面が提供できるよう心掛けている。また、馴染みの店や場所へ外出したりと気分転換が図れるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞きながら、買い物や市内の催事などへ個別で出かける等支援している。また、推進委員会で地域行事を教えていただき、地域の方々の協力を得ながら積極的に外出している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方は個別で買い物に出かけ、希望のものを購入している。また、こちらで預らせていただいている方に対しても週1回の訪問販売時、本人が預かり金より支払いができる様に支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、ダイヤルを押すなどの支援を行いながら電話をかけてもらっている。また、毎年賀状を出し、家族、友人との繋がりも継続できるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの和室に掘りこたつを設け、家庭的で生活感のある空間を作るようにしている。職員自身も環境の一部であるという事を自覚しながら、立ち位置や声の大きさ、歩き方や食器を片付ける際の音に十分気を付けている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホールにソファを置き、気の合う方と一緒にいたり、テレビを見る、横になる等思い思いに過ごせるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や日用品、思い出の写真など持参していただき居心地良く、落ち着ける環境を作るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名前を飾り、居室内は一部屋ごと異なった内装とし、他者の居室と識別しやすくなっている。洗面所には個々の棚があり、自分で身だしなみが整えられるよう配慮している。掃除用具などわかりやすい場所に置き、いつでも使用できるようにしている。		